

教員紹介



金 太学 (社会科担当 専任教員)

学歴：龍谷大学法学部卒業 韓国東国大学校経営大学に交換留学
佛教大学にて教職課程履修

コリア国際学園で最高の学校生活を

KIS社会科教員として教壇に立って1年弱。

元々はプロサッカー選手になりたかった自分が今はKISの教員をしていることを不思議に思う反面、生徒たちを教えることに日々やりがいを感じる毎日です。

開校当初はこの学校が在日社会や日本社会にとってとても大きな意義を持った学校ということもあり、一時はプレッシャーに押し潰されそうになったこともあります。自分自身が在日社会、ひいては日本社会における1つの歴史を創り上げているという使命感を持つようになりプレッシャーから解放されるようになりました。

これからもKISの教員として子どもたちにたくさんの知識、夢を与えるよう頑張っていきたいと思います



李 東訓 (理科・情報担当)

学歴：大阪大学基礎工学部卒業
大阪大学基礎工学研究科博士課程

私は1983年に韓国で生まれ、高校卒業後、日本に来日しました。2002年に、日韓共同理工系学部留学生派遣事業奨学生に先発され、大阪大学基礎工学部に入学(2003年)して、現在、同大学の基礎工学研究科で博士後期課程を受けています。

今年(2009年)、4月からコリア国際学園(KIS)で中等部の理科と情報授業を担当することになりました。コリア国際学園の生徒たちが科学的な思考力を養って、また、現在のIT時代で劣らないようにIT能力を増進させ、もっと広い世界にチャレンジするように教育したいです。

KISの皆さん！夢を広げて、一緒に、世界にチャレンジしよう！



若井 正道 (理科・物理・情報担当)

学歴：大阪大学大学院博士課程物理学専攻修了

「礼節の国」

大阪大学大学院理学研究科を定年退官後、他大学の非常勤職を経てこの4月から理数科と情報を担当することとなりました。同じ先生とはいっても大学の先生から中高の先生への大転身ではありますが違和感は何もありません。これは先生方や生徒さん達によって醸し出される学園の穏やかな雰囲気のゆえのように思われます。学園を初めて訪れたとき、初対面の生徒さん達から「こんにちは」と挨拶されちょっと驚きましたが、廊下でそれちがったときもちゃんと挨拶し授業も「礼」で始まり「礼」で終わるなど「礼節の国」の確かな伝統を感じます。



金 雅子 (家庭科担当)

学歴：池坊短期大学家政科卒業 韩国西江大学語学堂

授業と種々の実習や体験を通して、生活を創意工夫する知恵や技術を学び、将来境界を越え世界に羽ばたくKISの生徒達が、どんな環境にいても、人としてより豊かに幸せに暮らしてゆくための生きる力を養ってくれればと思います。

また、我が家にも生徒達より10歳ほど幼い韓国・日本の二重国籍を持つ息子がありますので、母業の修行をさせてもらっている気持ちで、一人一人の生徒と大切に関わり合いながら、思春期を過ごす未来の越境人達の成長を見守ってゆきたいです。



鎌田 清照 (理科・数学担当)

学歴：京都大学理学部卒業

建学の精神にある「越境人」になり、そうあり続けるためには、常に思考を止めず、考え方、行動する必要があると思います。数学は思考の訓練をするための最適の科目だと思います。私は生徒のことを考え、生徒は数学を考え、ともに越境人に近づければと思います。



カラム・ミッチャエル Callum Michell (英語担当 専任教員)

学歴：M.Sc.Pharmacology-Glasgow University,UK
Ph.D.Pharmacology-Strathclyde University,UK

I am from Scotland in the UK. I have taught at schools & universities in the UK & Japan.
I enjoy teaching English & talking about the differences between the UK & Japan.

裴 真珠 (音楽担当)

学歴：大阪芸術大学演奏学科卒業

音楽は心の栄養 音楽は境界を越える！

朴 善姫 (美術担当)

学歴：韓国誠信女子大学校芸術大学西洋画科卒業

夢を大きく持って最高の人間になろう！

崔 水晶 (コリア語担当 専任教員)

学歴：韓国暁星女子大学卒業 出身：韓国
京都大学人間環境学研究科修士号取得 同博士課程単位取得満期退学

生徒に問い合わせる授業、メリハリのある授業を目指しております。

朴 美貞 (朝鮮史担当)

学歴：韓国東義大学校卒業 志同社大学大学院文学研究科博士課程修了 博士（芸術学）

賢く勇気ある学生たちとの出会いを感謝します。

我々は、ともに新たな歴史を創造することを楽しんでいます！



安 東漢 (数学担当)

学歴：韓国高麗大学卒業 大阪大学地球総合工学修士課程修了
大阪大学地球総合工学データコース 出身：韓国

私は韓国で学校に通いました。入試地獄というほど韓国の入試はとても大変ですね。そのような状況でも数学だけは自信がありました。数学は多くの努力をしなくても十分に良い点数を取ることができました。

その秘密はとても簡単なことにありました。

数学は暗記する科目ではありません。理解する科目です。一つの概念を理解するならばその次は毎日少しづつ練習することで良い点数を得ることができます。数学が難しくて嫌いだと思っている学生たちが多いと思います。それでもあきらめはいけません。

基礎から固めていけば真の数学を理解することができるでしょう。

数学を知るには、このようにやってみて下さい。

1. 授業時間に習った内容と概念をその日に復習する。

2. 毎日少しづつでも着実に数学問題を解く。

3. 間違った問題や分からぬ問題は誤答ノートを作り書き留める。

4. 誤答ノートの内容を復習する。

数学は着実にしなければなりません。これから熱心に数学を勉強しましょう!

樋浦 郷子 (英語担当)

学歴：津田塾大学卒業
京都大学大学院教育学研究科博士課程



When we say crossing the border (Ekkyo), people may imagine it as physical one in general. But I think it also means getting over mental barrier. As I have lived longer than you students, I know well about how much you become worried and afraid when you try to overcome mental barrier of yourself and of others. No matter how serious the fear is, I still expect you all to go over both physical border and mental barrier and to go even farther beyond without any hesitation. Get ready?

越境이라고 할 때 보통 물리적인 국경을 상상할지도 모른다. 그러나 나는 이 말이 마음속에 있는 벽도 의미한다고 생각한다. 학생들보다 나이가 많아서 나는 자신과 사람들이 가지고 있는 마음의 벽을 넘어가려고 하면 얼마나 두렵고 걱정되는지 잘 알고 있다. 하지만 나는 학생이 물리적인 벽이라도 심리적인 벽이라도 용감히 넘어 가는 것을 더욱 기대한다. 준비됐겠지?



ナージャ・マレー Nadezhda MURRAY (英語担当 専任教員)

学歴：アメリカ カールトン大学卒業
立命館大学文学部大学院修了

“Nadezhda” (Nadya) means “hope” in Russian, so I am sometimes called 希望 My career so far has covered New York, Minnesota, Chiba, Kyoto, and Osaka, in two and now three languages. When not working I am usually reading, playing music, or walking around the city.

本名は「希望」の意味です。ニューヨーク州の大学町で生まれ育ち、ミネソタ州のカールトン大学を卒業してから日本へ。成田空港の飛行機の下で楽しくALTしてから、立命館大学大学院で修士号と教員免許を取得。今はすっかり大阪人となって、それらしい三ヶ国語生活を送るように頑張っています。語学は地道な作業が多く、しんどい時もありますが、みなさんと一緒に言葉の音楽と並ぶ美と楽しみを味わっていきたいと思います。



羅 卿化 (コリア語担当 専任教員)

学歴：韓国国立光州教育大学校卒業 出身：韓国
鳴門教育大学交換留学

私の学級運営目標は、保護者と学生、教師が一緒に参加して疎通する学級、そして互いに認めあうことと、激励を通して自身の発見です。担任と保護者が互いに気持が通じたら、子どもたちが抱えている問題の全般は、解決するとのことが、今まで見てきた私の経験でもあります。

褒めることを通して、子どもたちの中にだけにある秘めた才能を発見するのに、私と保護者、そして他の先生たちが、共に努力して歩み寄ることが、私のこの1年の大きな課題だと思います。そして子ども達が、いつかコリア国際学園を卒業する時に、自信感と実力を備えて、アジア社会の堂々とした一員になってくれることを祈ります。

私たち学校も子どもたちの人間形成の場になれるよう、他の先生方と力を合わせ頑張っていこうと思います。



鍵本 聰 (数学・理科・化学担当)

学歴：京都大学理学部卒業
奈良先端科学技術大学院大学修了

日本と韓半島、それらの2つの文化交流に思いを寄せるたびに、僕は色々なシーンを思い浮かべます。渡来人や朝鮮通信使、近現代のさまざまな人々やモノの行き来など、そこには常に最先端の技術がかかっていました。

KISの学生はいつの日にか両国の文化交流を担うであろう重要な人材です。そして今以上に高度化された技術を使いこなしていくといけません。

一人ひとりがこうした高度な情報化社会でうまく渡り歩いていくよう、あふれんばかりの数学力・科学力を身につけてほしいと願うばかりです。



水野 友美 (世界史担当)

学歴：京都大学文学部卒業
京都大学大学院文学研究科修士課程修了

生徒たちのイメージする「越境人」は、多言語を操ることもさることながら、顧問である姜尚中氏のような広い視野を持ち、国際的に通用する人です。そんな素敵な人に、生徒も教師も少しでも近づけるような努力を重ねていきたいと思います。

「温故知新」—歴史を学ぶ意義はこの一言に凝縮されています。私の担当する世界史の授業では、時間・空間とともに広い範囲を捉え、多様な人々をその視野におさめる視点を養います。生徒には国家・民族という枠に囚われない、懐の大きな人間になってほしいと思います。

朴 永昇 (保健体育担当 専任教員)

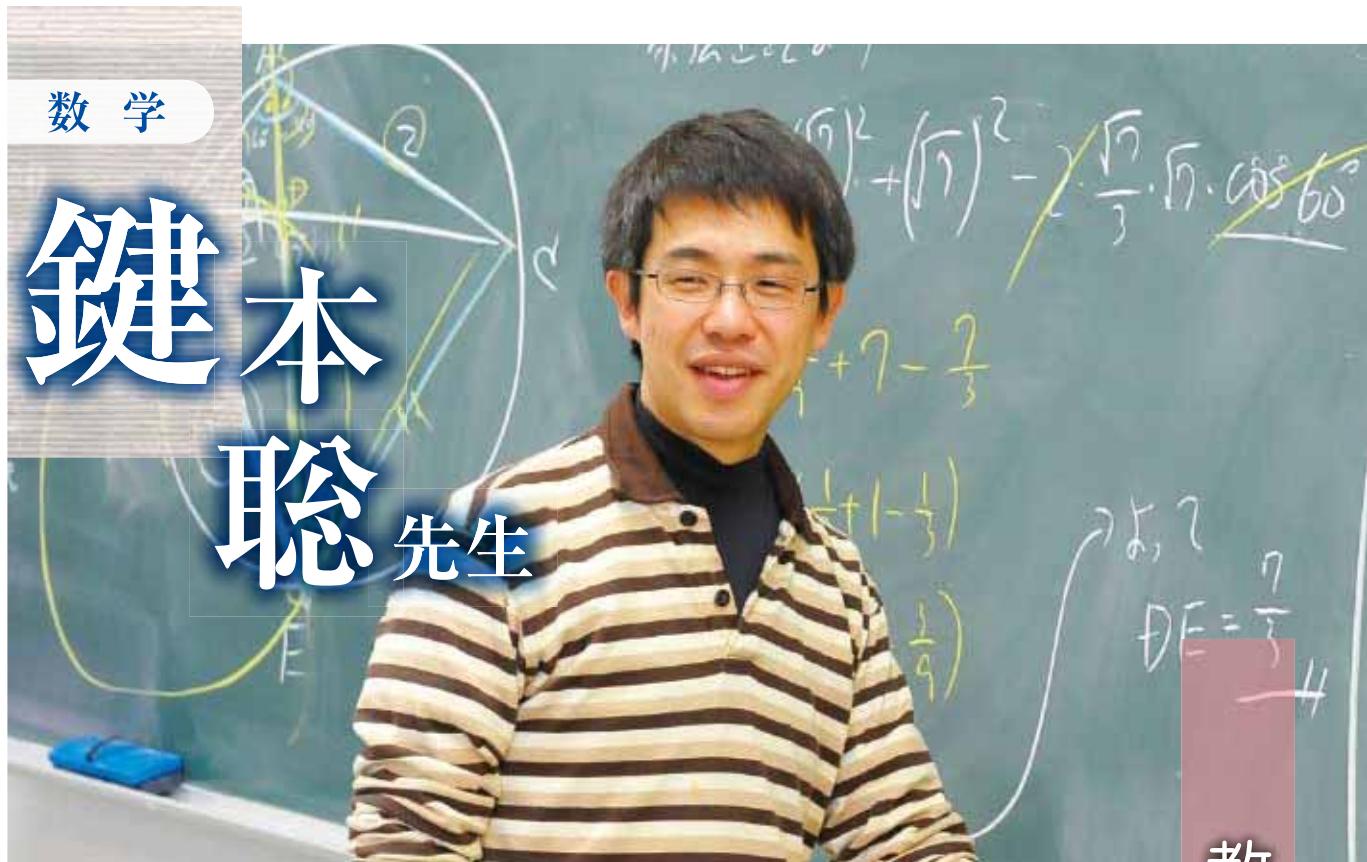
学歴：ソウル大学校卒業 神戸大学総合人間科学研究科博士課程 出身：韓国

「世界に目を向けてほしい」これからは、外国との接触なしに考えることはできません。将来自分が自分を褒められるためにも、世界の中でどう生きるかを考えてほしいと願っています。

金 美那 (日本語担当 専任教員)

学歴：同志社大学文学部卒業 筑波大学大学院修士課程修了

日本文学を学び教師となり、韓国に留学し…さまざまな経験はここでみなさんと出会うためだったのだと感じています。



教員スポット紹介

生徒がともかく問題を

自ら解くように常に誘導。

兵庫県西宮市で生まれ育ち、19歳までそこで暮らしました。大学の4年間は京都市内で下宿していて、それからは就職

で静岡県浜松市に移り住んだ後、現在は奈良市内にいます。仕事は、大学卒業後ローランド株式会社で電子楽器の開発を4年間、高校教師を2年間、予備校講師を4年間しました。その後、現在は小さな進学塾を経営しながら大学講師、本の執筆等、いろいろとやっています。

数学は、真面目に授業を聞いているだけでは点数がもらえない科目です。なので、問題を自分から積極的にどんどん解いていくことが要求されます。僕の授業では、生徒がともかく問題を自ら解くよ

う常に誘導しながら、(時には励まし、時には生徒の話を聞きながら)授業を進めています。

「コリア」という1つの共通項で集まった生徒たちなので、特に数学に関する基礎力や、その考え方は多様です。この学校の全生徒が将来、世の中の役に立つことがある時、ほんの少しでも、そのお役に立てればという思いで数学の授業をしています。

著書 ● 単著に『計算力を強くする』(講談社ブルーバックス)、『高校数学とつておき勉強法』(講談社ブルーバックス)、『それでも数学を捨てられますか』(サンガ)など多数。共著の『ラコン桜公式副読本『16歳の教科書』(講談社)はベストセラー。

生きた英語と触れる機会を できるだけつくる。

私は、ニューヨーク市から車で5時間ほどの大学しかない小さな町で生まれ、育ちました。父は大学の教授でした。私は自身は、ミネソタ州にある大学で学び、楽しい大学生活を送りました。そこで日本語と音楽を初めて本格的に勉強しました。

その後、ニューヨークの日本政府国連代表部で、2年半の間、秘書として勤務しました。いわゆる「お偉い方々」とも日常の業務を通じて、たくさん出会い一緒に仕事をしてきました。さまざまなことを見聞きして、とても良い経験になり楽しかったです。

日本に留学後、3年間立命館大学で日本文学を研究し、修士と教員免許をとりました。立命館大学では、宮本百合子と平林たい子という戦前の女性作家や女性文学者にも興味があり、日本プロレタリア文学を専攻しました。日本の戦前の生き様式も勉強することができ、非常に興

味深く面白かったです。

日々の英語授業は、生徒一人ひとりの英語力を伸ばすために試行錯誤の連続です。コミュニケーションツールとして英語を使い、授業中はほぼ英語だけで行っています。また、自由なテーマでいいのですが、毎日英語の日記を書くよう指導したり、あるいは職員室に探し物にきた生徒に対しても、必ず英語で関係を伝えるようにしています。日常生活の中で、生きた英語と触れる機会ができるだけつくるように意識しています。

KISの生徒たちは、それぞれ豊かな個性をもつた可愛い生徒たちばかりです。こうした個性をさまざまな方向に活かして欲しいと思います。もちろん、英語、コリア語、日本語の3ヶ語もしっかりと習得し、3ヶ国語の語学力を活用することを望みます。「型」にはまらず、多様な視点から考える力を身につけ、立派な大人になるよう期待しています。





コリア語

羅卿化先生

私は、韓国ドラマ『朱蒙』(ジュモン)の撮影地で有名な韓国・全羅南道の羅州で生まれました。小学校から大学までは、ごく平凡な学生でした。

そんな私に転機が訪れたのは大学3年生の時に、1980年5月の光州民衆抗争について、もっと詳しく知りたいという気持ちから「光州5・18記念財団」で、ボランティア活動をはじめた時でした。

その後、立命館大学で開かれた平和シンポジウムに参加することになり、初めて日本に来て、たくさんの人たちと出会いました。

その4日間で、さまざまな体験をすることによってショックもあり、私はさらに深く考えさせられました。そんな中、ある一つの悩みが生まれました。「今私に何ができるだろうか?」とにかく、直接自分の目で見て、触れて考えてみよう」という気持ちで、日本への留学を決意したのです。最初は、言葉が通じなくてた

いへんでしたが、だんだん生活にも慣れ楽しい時間を過ごしました。

そして交換留学生の期間を終え、いつたん韓国に帰りました。大学卒業後は、小学校で勤務する中、日本にいる友達の紹介でコリア国際学園のことを知りました。このような素晴らしい理念の下で働きたいと思い、再び日本へ戻り今にいたっています。

今後は、中等部1年生と一緒に、楽しくて、おもしろいコリア語の授業をすることで、コリア語の能力を十分に伸ばすことができればと願っています。また、楽しい学校、学びたい人ならば誰でも通えるそんな学校づくりに力を入れたいと思っています。教育とはすぐに結果が出るものでもなければ、変化もすぐに見えるものでもないですが、いつかは、きっと「奇跡」に出会うことを信じて、日々頑張っていきたいと思います。

楽しさで、一緒に勉強しましよう!



生徒会長 今庄 貴博くん（高等部2年）

— 生徒会長としての今年の抱負や意気込みは？

来年は、もう受験生の年ですから、今年が生徒会長としての最後の年です。ですから、今年は、自分が出来ることを精一杯頑張つて、コリア国際学園（K-I-S）を活気づけたいです。そして、来年に生徒会長になる高等部1年生の見本になれるように頑張りたいと思っています。

— 今年も生徒会長ですが、昨年1年

を振り返ってみて感想は？

昨年は何もかも初めてで、戸惑うことばかりでしたが、その反面、楽しく活動できたように思います。辛いこともあります。昨年の文化祭では、僕達は「太陽の塔」と「バルーンアート」を作りました。そのためにチーム分けをしたのですが、毎回参加してくれた人もいれば、1回も参加してくれない人もいました。

その時に、みんなの気持ちを動かすことができない、リーダーシップの難しさとともに、自分にふがいなさを感じました。でも昨年1年を振り返ってみると、たくさん

— 生徒会長から見るK-I-S生徒たちの印象はどうですか？

自分の意志を持つた生徒ばかりです。それに、みんな個性が溢れていて、面白いです。勉強するときは勉強し、遊ぶときは遊ぶという、メリハリのある生徒ばかりです。

— 最後に、未来のK-I-S生に向けて一言アドバイスを。

想像しているよりも楽しい学校だと思います。勉強面においては、膨大な学習量にしんどい時や心が折れそうになる時もありますが、この経験が今後の自分を大きく成長させてくれるのだと思うと、勉強面でも楽しくてやりがいのある学校だと思いま

す。

これから入学を考えている未来のK-I-S生には、自分の個性を存分に發揮してもうつて勉強に友達づくりにと楽しい学園生活と一緒に過ごしていけたらと思います。

あなたたちに伝えたい3つのメッセージ



高等部 保護者 坂本 由美

生徒のあなたたちに伝えたいメッセージが3つあります。

まず1つ目。プライベートな空間でも、パブリックな場面においても、表現し、伝え、話し合うことを恐れないでください。そのためこそ多くの言語を学ぶのであり、人類の歩んできた歴史を学ぶのであり、先人たちが積み上げてきた素晴らしい学問の扉を開くのです。

そして2つ目。「たった一人の意志が世界を変える」ということを信じてください。あなたたちが選択した、このK-Sも、たった一人の人が自分の思いを他者に伝えたところから始まつたのです。一人の意志が今こんなに多くの人たちを動かし、K-Sは世界の中に産声を上げたのです。

最後に3つ目。あなたたちは、K-Sという真新しい船に乗って、大きな海原に向けて出帆しました。あなたたちに手渡された羅針盤は、ただひとつ。「この冒険物語の主人公は、あなたたち生徒一人ひとりだ」という平凡な「真理」です。私はK-Sが100年を越えて歩み続け、みんなが憧れる伝説の学校になると確信しています。そして他の誰でもない、あなたたち生徒こそが「境界をまたぐ越境人」として、この真新しいK-Sの歴史と伝統を創り上げていけるのです。「K-Sは生徒が主人公!」。そのことだけは決して忘れないでください。

(2008・8・31 校舎竣工式でのあいさつより)

いつかは社会の主役となる大きな人材に

中等部 保護者 朴 強用

昨年K-Sが開校し、今年から子どもたちのために学校の近くに引っ越してきました。学校の近

くで暮らしながら子どもたちが学校生活を充実して過ごせるのであればと思う気持ちから、このような大きな決断をしました。この不景気に新しい動きを探すのも、すごく大変でした。

「どうして子どもたちを学校法人の認可もまだないK-Sに送るのか。自ら苦労して生きていくのか」と入学するときに周りには、私をあざ笑いませんでした。「親の誤った判断で、子どもたちの将来を台無しにするのではないか」と、口をそろえて言いました。ウォンジンとウォンソンが4、5歳の頃、初めて日本語、英語、中国語を遊び始めました。「まだ母国語も話せない子どもたちに何の外国語の勉強なのか」と言われました。

たくさんの周りの人たちが私を「変人」扱いしました。「お金と時間がもつたない。子どもたちが、かわいそうだ…」。このような周囲の声をずっと聞きながら今日まで来ました。

ふと考えてみると、親の欲ではないかとも感じる時もあります。しかし、これまでの私の決断に決して後悔はありません。中学校1年生、2年生が、4ヵ国語を話せて聞くことができるということは、どれくらいすごいのか、この子どもたちが大人になつたとき、外国語の勉強のために、遊ぶ時間が少なく、「奪われた」時間があつたとしても決して後悔はない、と私は考えています。

K-Sは初めてできた学校なので、今は少し難しい面や、不安なこともありますが、正式に学校法人の認可も取れて、ひと段落すれば、きっと良い学校になるだろうと思います。大学進学という困難さえ解決すれば、生徒たちはK-Sに進学したことを決して後悔しないでしょう。

世界は、急速に変化しています。私たち、急速に変化するすべてを学ぶことはできません。しかし、急速に変化する社会に合わせて生活するためには言語を先に学ばなければならないと思いま

す。世界を舞台に活躍しようとするK-Sの生徒たちの将来にとって、K-Sは本当に良い学びの場になるでしょう。形式にとらわれず、より実質的に時代を先取りする学びの場になつてほしい。

漠然と一生懸命に勉強して立派な人になろうとする未来よりは、今後どんな人になろうかと目標

を先に決めて、それに向かって全力疾走することが成功の近道ではないかと思います。学校も子どもたちが創意力ある人として成長することができます。

そして生徒たちが学校を卒業し、社会に出て行くときに備え、たくさんの人たちとの「絆」を大切に築き上げていくことも、生徒と学校の発展に役立つでしょう。K-Sの生徒たちが、いつかは社会の主役となる大きな人材として育つてくれるのを切実に願っています。

K-Sが名門学校として発展していくためには、生徒、先生、そして保護者たち、またK-Sを応援している皆さまが、愛を持って熱心に呼びかけなければならぬと思っています。K-Sにお子さんを任せようと思つていらっしゃる保護者の方々は、信じて任せれば、お子さんの将来に必ず役に立つと思います。世界を舞台に仕事をしたいお子さんがいるのであれば、K-Sを選択して勉強することができ、お子さんの未来にとても役立つと思います。

夢多い学生時代に、しっかりと勉強して自分がなりたい夢をつかむよう道を用意することが親としての道理ではないかと思います。K-Sに幼い子どもたちを二人も任せながら、仕事の多忙さを理由に、なかなか学校に行き、あいさつすることもできずにいることを心苦しく思いますが、いつもK-Sのさらなる発展を祈っています。

地域からの声

理容業 和田 守さん



— K-Sが、この地域に設立されたことについてのご意見を?

私自身は部落解放同盟の活動を通じて、さまざまな差別問題について、私なりに学習してきました。国際人権規約なども学んだところでは、あれこれ文句を言うのはいけないと思うのです。学校の近くには「豊川いのち・愛・ゆめセンター」の相談窓口もあります。何か困ったことがある場合は、決して一人で悩まず、こうした施設もどんどん利用してほしいと思います。

— K-Sの生徒たちの印象は実際どうですか?

K-Sの生徒さんは、本当に礼儀正しくて挨拶もできるし、皆素直でいい子達ばかりだと思います。学園では、勉強だけでなく皆が協力して助けあいの心を養つていてもらい、これからも私たち地域のみんなと触れあって、どんどん交流をしていくてほしいです。

— K-Sへの要望などがあれば、お願ひします。

私たちも、村の行事がある時には、K-Sの生徒たちにどんどん参加してほしいと思っています。昨年11月に、K-Sの文化祭を開催された時は、私は残念ながら参加できなかつたのですが、地域の方も何名か参加しました。あれは良かったと思いますよ。

今後、新しい生徒も増えてくるでしょう。そうなると地元との交流はもつと必要になつてくると思うのです。学校の近くには「豊川いのち・愛・ゆめセンター」の相談窓口もあります。何か困ったことがある場合は、決して一人で悩まず、こうした施設もどんどん利用してほしいと思います。

います。コリア国際学園（K-S）の存在価値を分からず、あるいは、あれこれ文句を言うのはいけないと思うのです。足を踏まれて痛みを受けた人は、痛みを感じているわけだから。私たちは、地域にあるJICA（国際協力機構）とも交流関係をもつており、国際交流は必要だと思っています。K-Sも、ここ地元だけではなく、外にどんどん出て、活動の領域を広めていくほしですね。

また、地域の人々と助け合つて、地域との交流を積極的に取りくんでいて欲しいと思います。私は、これまで教育をあまり受けた機会がなかったので、やはり学校教育というのは、とても必要なものだと感じています。ですから、K-Sが出来たことを私たちも積極的に受け入れ、地域の帆したことを私たちも積極的に受け入れ、地域のみんなで協力していきたいと思っています。

ソウル大学と延世大学を訪問し、入試手続を協議

進学と入試対策で協議

さる5月7日から9日、KIS生

徒の進学問題と関連して洪孝子校長と朴永昊教頭が、ソウル大学入試管理本部と延世大学入試課を訪問しました。

今回の訪問は、2010年度の在外国民選考と外国人特別選考についての資料収集と韓国の大学との相互交流に関する意見交換を目的として行われました。5月7日に訪問した延世大学では、すでに昨年4月のKIS開校の際に、延世大学のアンダーワード国際学部部長らと本学園との間で相互交流に関する協議を行いました。また昨年、開校特別プログラムとして行われた韓国への短期留学時に、本学園の1期生の生徒全員が、延世大学を訪問していた経緯もあり、今後の入試対策や現状に関する円滑でより具体的な協議が行われました。

翌5月8日には、ソウル大学を訪問しました。ソウル大学は入試管理を専門とする本部棟が別にあり、本部内では入試担当の専門委員らが、増えている外国人留学生に対応するために英語、日本語はもちろん中国語などでの専門サービスも提供する専門委員らと在外国民および外国人ました。ここでは、入学管理本部の

詳査についても意見交換しました。

ソウル大学関係者、KISで説明会開催

選考にともなう書類全般の様式など



2008年度の在外国民および外国人選考の結果、志願者500名のうち半数の250名程度が入学しており、日本からは、東京韓国学校などの卒業生の10名前後が入学しています。本学園の在校生の中にも、夢を掲げて、ソウル大学や延世大学などの韓国の大学を進学目標にして昼夜を問わず学業に専念している生徒らがいます。

延世大学や高麗大学など私立大学が海外留学生の受け入れに向けて積極的な広報活動を展開している一方で、ソウル大学でも今年から在日コリアンを対象にした入試広報活動に力を入れ始めました。5月22日と23日の両日、ソウル大学の入試管理本部担当者3名が本学園を訪問し、教職員と保護者を対象に入試説明会を開催し意見交換を行いました。

KIS、韓国・国科人中学校と姉妹校協定を締結

語学研修のための 相互協力などで合意

本学園は、5月7日、韓国の国科人中学校と姉妹校協定を結びました。国科人中学校は、韓国生命科学研究所が母体となり、昨年3月にソウル市鐘路区にあり、国際的な科学人の育成を目標に設立された学校です。1993年に韓国生命科学研究所、2005年にはNPO法人の21世紀生命科学文化財団を設立し、これは生命科学、科学・物理ならびに情報科学分野における韓国の最高峰とされています。

国科人中学校で行われた協定式では、国科人中学校のチヨンクミン理事長（NPO法人21世紀生命科学文化財団理事長）、金チヨンシク校長をはじめ多数の教職員が参席して行されました。本学園からは洪孝子校長と朴永昊教頭が参席しました。

締結された事項は、①語学研修のための相互協力、②交換生徒交流と留学推進、③教職員共同セミナーと教員交流、④その他、相互機関の発展のための情報交流と協力事業推進、などです。今回KISとしては、初めての姉妹校協定の締結であり、今後両校はグローバル化にともなう21世紀の「越境人」育成のためのパートナーとして交流・協力関係を発展させていくことで合意しました。



決められた「正解」を追い求める「キャッチアップ」型から 「問題」解決に向けた「フロントランナー」型の人材育成へ

教養・Liberal Arts科
授業訪問記

「たくましい創造力」の育成

グローバル化と成熟社会が進む中で、多様な他者（世代・価値観、職種など）との出会いと学びを通じて、生徒自身の学ぶ意欲を引きだし、KIS教育の特徴の一つである「たくましい創造力」を育成します。

そのために社会の第一線で活躍するゲスト講師を招き、身近なテーマからリアルな現実社会を学びます。

大学ゼミ方式の授業展開

KISの建学の精神と教育理念にそって専門のコーディネーターのもと、生徒たちの「読む力」（情報リテラシー）、「考え方抜く力」（論理力／判断力）、「組み合わせる力」（編集力／コーディネート力）、「表現する力」（コミュニケーション力／共感力）を育成します。授業は、KISの少人数クラスの環境を生かし、大学のゼミ方式で進められます。

今回のLA授業では、イラストレーターの黒田征太郎さんをゲスト講師に招き、中等部と高等部の合同で授業が行なわれた。午後の3コマ連続で行なわれた授業では、まず、黒田さんが自身の生き立ちを語り、次に、絵や表現とは何かということについて話がされ、最後に、生徒たちとのアートワークショップが行なわれた。

■ 黒田さんの生き立ち

「ぼくは今、70歳です。黒田征太郎、70歳」。そう言って黒田さんは、自身の軌跡を語る。一番古い記憶、両親のこと、戦争中のこと、敗戦を期に「今まで教わったことが、みんな間違いになつた」こと、戦後の貧乏生活、高校での転機、絵を描くのが好きだった青年時代。

「ぼくが何をしゃべってるかというと、ぼくは勉強なんて何もしてない、つていうことですわ」。黒板に「 $1+1=2$ 」と書いて黒田さんは、「ぼくは実は、ここでつまずいてるんです」と言つた。なぜ1と1を足さなければならないのか、 $1+1=2$ にならないこともあるのではないか。「 $1+1=2$ でええねん。でも、別の見方も持つてほしい。これから生きてく自分らは、そういうのがすごい大事やと思う」。少年時代に「つまづき」を経験した黒田さんは、「この日、KISの生徒たちにそう伝えた。

■ 絵とは、表現とは

絵と言は一緒にだということ。そして、表現とは、人間が生きているということ。黒田さんはそのことを生徒たちにパフォーマティブに伝えた。黒田さんが黒板を平手でパンと打つ、そこで出来た手形をもとに、絵が描かれる。「俺がいてるから、音が出た。俺がいてるから、形が出たやん」。大切な人に自分の感動を伝えたいという思い、それが、表現を生んだ。だから、「ART」の本質は「LOVE」にある。しかし、「人類がつくった最大の光と音。それが、最悪の結果になってしまった」のが、広島と長崎に落とされた原子爆弾、「PIKADON N」だった。

■ PIKADONワークショップ

最後の時間は、黒田さんのPIKADONプロジェクトに基づいたワークショップが行なわれた。生徒たち自身にとって、自分が「YES」と言えるものは何か、「NO」と言いたいものは何か。30分強の時間であつたが、生徒たちの個性が反映された作品が出来上がつた。

TシャツにGパンという服装で、「ぼくは学校がとにかく嫌いでね」と言い、授業中に鳴り出した携帯電話に出て、

（文・比嘉康則 KIS教養・LA科チームスタッフ
／／大阪大学人間科学研究所 博士後期課程）
●1969年デザイン会社K2を設立、講談社出版文化賞をはじめ数々の賞に輝く。その後ニューヨークに移住し、グローバルに活動。ライブペインティング、ホスピタルアートなどを精力的に行い、2005年7月「PIKADONプロジェクト」を始動。『野坂昭如／戦争童話集／忘れはイケナイ物語』の映像化など戦争・環境問題に関わりの深い活動を多数行っている



第5回 黒田征太郎さんとアートワークショップ



教養科の授業の一環としてKISの子どもたちが、「故郷の家・京都」を訪れました。ケアハウスに入居するハルモニ、ハラボジにとつて、本当に素晴らしい1日となりました。どんなに立派な建物の中に住んでいても、ほとんどの方が孤独であり、生きる意欲、喜びを喪失されておられます。別れ際には、涙するハルモニの姿も見られ、KISの子どもたちの明るさと優しさ、そしてエネルギーが心に届いたことを確信しました。その後、「月に1回でいいから、KISの子どもたちに来て欲しい」とハルモニに懇願され、嬉しい気持ちで逆に困ってしまいました。

第6回 特別養護老人ホーム 「故郷の家・京都」訪問 リビング・ライブラリー

■「故郷の家・京都」相談員の声

KIS「教養・Liberal Arts」科コーディネーター 金 敬黙さん（中京大学国際教養学部准教授）

教養・LA科授業の原点は、中等教育の段階（中学高校）から、高等教育機関（大学等）で行われている「教養教育」を実施すべきであるという問題意識です。そうすれば、KISの卒業生が高等教育機関への進学や社会に進出した際に、より深い、より難しいテーマで悩み、解決の方法を模索することが可能になるからです。

授業の特徴をいくつかあげると以下のようなキーワードがあがってくると思います。「正解がない」「違いを認めた上で、調整を取ることを重視する」「問題意識を抱く」「調べて考える」「コミュニケーションをとる」などです。その上で、「越境人」を育てることを意識しています。そこで「越境する」ものは時間軸（世代や歴史）と空間軸（国境や地域）にとどまらず属性（ジェンダー等）や価値観にも及びます。

日本の学校教育システムの中で、「教養」について中学生、高校生から悩む学校はいくつあるでしょうか。KISでは、当然あるべきものをつくり、やるべきことをやっているに過ぎません。

〈2009年度授業〉

	テーマ	ゲスト講師	日程
第1回	オリエンテーション&教養とは何か		4月13日
第2回	世界を旅してみたいと思いませんか？	ジャック・カリオ（元国連通訳官）	4月27日
第3回	街を想う①～街と自分と世界のつながりを考える		5月11日
第4回	街を想う②～街と自分と世界のつながりを考える		5月18日
第5回	黒田征太郎さんとのワークショップ	黒田征太郎（イラストレーター）	6月 1日
第6回	特別養護老人ホーム「故郷の家・京都」 ～リビング・ライブラリー	梁文吉（文化芸術監督） 金順善（介護スタッフリーダー） 「在日」1世のハルモニ、ハラボジ	6月20日
第7回	9.11「ショートフィルム」から何を感じるか		6月22日
第8回	大学とはなにか～現役大学生に聞く	比嘉康則（大阪大学大学院博士後期課程） 丸山綾子（京都大学3回生）	7月 6日
第9回	減災から考えるくらしと安心～非日常から日常を点検する	菅磨志保（大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任講師）	10月 5日
第10回	日本の外国人政策をどう考えるか ～16歳の外国人登録の申請更新を迎えて	田中宏（一橋大学名誉教授）	10月19日
第11回	ジェンダー論入門～ありのままの私を生きるために	土肥いつき（高校教員）	10月31日
第12回	アクション・ワークショップ	金湖蓮（アクション・ワーク フシリテーター）	11月 9日
第13回	ウォン安、円高って何!?～貿易と為替レートについて学ぶ	朴一（大阪市立大学大学院教授）	11月21日
第14回	アート・ワークショップ	Bleu Birds&ピエロの筆	1月16日

※ 後期授業のタイトルは変更の可能性があります。



きむ・ぎょんむく ● 1972年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程修了。博士（学術）。秋野豊ユーラシア基金「第3回秋野豊賞」受賞。国際協力NGO「日本国際ボランティアセンター」(JVC)で旧ユーゴスラビア・カンボジアなど紛争地域において活動。著書に「越境するNGOネットワーク」(明石書店)、共著に「多文化・多民族共生と平和の模索」(新評社)など。